

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073300313		
法人名	株式会社 太平洋		
事業所名	グループホーム ファミリー	ユニット名	
所在地	宗像市平井1丁目19-1		
自己評価作成日	平成29年11月27日	評価結果市町村受理日	平成30年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年12月11日	評価確定日	平成29年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成13年の開設以来、地域の一員として、確固たる地位を築くとともに地域行事の参加はますます盛んになっています。今年度も地域の要請により夏祭りのバザーにお手玉・亀ブローチを出展させて頂き、大好評でした。地域の小学校・学童保育施設・保育園等と連携し、利用者との交流を模索しています。裏庭の野菜作りも経験を積んで、種類を増やしています。苗植え・水やり・草取り・収穫など入居者の方々に手伝って頂いています。また、収穫した野菜を食事メニューに取り入れる事は、食の楽しみの一つとして今後も継続していきたいと思ひます。宗像市の花いっぱい運動に協賛して花壇やプランターに花苗を植えて、ご利用者様・近隣の皆様・ご家族に喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

29年3月から新体制になり、“更なる向上”を目指したホーム作りを続けてこられた。29年度は職員全員に自己評価をして頂き、日々の取り組みを振り返る機会が作られた。担当職員が介護計画のモニタリングを行うようになり、深く観察する視点ができ、ケアの意見も増えている。ホームの花や畑の野菜も増え、ご利用者の役割(水やり、収穫等)も増えており、日々の食事で新鮮な野菜を食べられている。ご利用者が調理する機会も増やし、毎月「カレーの日」と称して、ご利用者だけで作る夕食を楽しまれている。ご利用者個々の「有する能力」を発見する機会になっており、今後も職員全員でアセスメントや介護計画作成の話し合いを密に行う予定である。施設長は「今の状態がベストと考えるのは止めて、ご利用者のために何が出来るかを考えてほしい」「自分の親を預けたいと思う施設づくりを目指してほしい」と職員に伝えており、職員も「あきらめない」気持ちで日々の生活支援を続けると共に、認知症があっても普通の人と変わらない生活ができていることを地域の方々に理解して頂いている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝夕の申し送り時や毎月のミーティング時に、理念の共有に努めています。施設内に何ヶ所も張り出して常に見える様にしています。	前回の外部評価以降、「地域社会とのきずなを大切にします」と言う地域密着の視点を追記された。運営推進会議で報告し、保育園児との交流のアドバイスが頂けた。統括、施設長、職員の方々は「まだまだ」「これから」と言う思いがあり、今後の取り組みに繋げる予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方々を夏のバーベキュー大会にお誘いしたり、9月の防災訓練の際は、ご近所の方と声の掛けあいを行ったりしました。	地域の夏祭りにお手玉等を出展し、ご利用者も売り子になられ、完売する事ができた。地域の敬老会では演劇等を楽しまれたり、平井地区の子供神輿の訪問も恒例で、ご利用者も楽しみにされている。小学校や保育園に出かけ、子ども達との交流を楽しむ事ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加した際、介護相談に乗らせて頂いたり、施設見学を積極的に進めています。運営推進会議の内容等を地域選出の委員(町内会長)より報告していただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夏祭り等、地域行事の予定等の連絡を頂けるので、行事当日の職員増加等をする事で参加しやすくなっている。	地域の方から「夏祭りの出店のお誘い」があり、ご利用者手作りのお手玉等を出展する事ができた。地区の会議等で運営推進会議の内容を報告して下さり、「何かあったらファミリーへ」等の嬉しいお言葉を頂いている。今後も地域の中で介護知識を役立てる方策を考えていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事やご指導を「地域密着ネットワーク」の会議の席上だったり、常日頃から市の窓口を尋ねたりしながら、頂いている。	施設長は29年度からグループホーム勉強会の幹事を引き受けている。「地域密着ネットワークむなかた連絡会」に統括も出席し、市の職員や他事業所との意見交換を続けている。宗像市の事を考え、宗像市全ての事業所の事を考え、宗像全体が良くなるように“でき得る協力”を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講習等を受講した職員による講習をミーティングの度に行っている。玄関施錠について施錠解錠にむけての方策を検討していきたい。	朝日を浴びて頂いたり、畑仕事等をして頂き、居場所作りや役割作りに努めている。生活歴を理解するように努め、その時々のお悩みに向き合うと共に、真の原因の理解に努めている。ご本人が安心して、納得できる対応を行うために、「問答マニュアル」も作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、虐待防止の講習を受けた職員よりミーティング・申し送りの際に話をしてもらっている。GH勉強会で取り上げ多くの職員が参加した。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の講習に職員を参加させるとともに施設内に資料をおいていつでも見れるようにしている。後見人の面会時には情報提供を必ずしている。	ご利用者の後見人や市役所の保護課との話し合いを続けている。施設長や主任等が制度利用の必要性を個別に検討し、統括(社会福祉士)からのアドバイスも受けている。施設長の発案もあり、29年11月に地域のGH勉強会で「虐待と成年後見人」の勉強会が行われた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を十分行うとともに法令改定時にも説明を行っている。ご家族の不明な点や疑問点については払拭できるよう説明している。その後については、常時電話連絡でもお答えしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しています。ご意見、ご要望の聞き取りだけでなく思いついたときに記入して頂いたご意見・苦情等は運営推進会議での議題として取り上げ助言を頂き改善できる仕組みを作っている。	家族の方々の遠慮されるお気持ちを理解し、少しでも本音を話して頂けるように努めている。面会時に暮らしぶりや健康状態を報告しており、担当職員が季節ごとの衣類の不足分等をお伝えしている。今後もより多くの意見を頂くための方法を検討していく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の仕事の中で職員の意見や提案を聞き、ミーティング等で議題として取り上げ、改善できる仕組みを作り上げている。身近な課題については申し送りの際に話し合っている。	施設長が“まとめ役”を担い、職員の要望(休み希望など)を丁寧に確認し、働きやすい環境になっている。緊張感も適度にあり、ホーム運営の方向性も定まってきており、ミーティングも毎月行い、職員の意見も増えている。職員全員が年1回以上の研修に受講できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等により給与水準の見直しや正職員への登用を行っている。資格取得については受験対策や資格取得に向けた勧奨を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用にあたっては性別・年齢・宗教等を理由に採用対象から外すことはない。個人の能力・希望を見極め仕事の配分を行っている。	統括と施設長が面接しており、「やる気」や「価値観」「介護観」等と共に、「ファミリーに合う方かどうか」「ご利用者に対して“してさしあげる”等の姿勢があるか」等を大切にされている。職員個々の個性を大切にされており、適材適所で“できる仕事”をして頂けるように努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が人権尊重の大切さを常日頃から職員に伝えるとともに、ミーティング時に統括マネージャーによる人権・倫理に関する研修を実施し、職員に啓蒙している。	施設長は「利用者の身になって、自分の親を預けたいと思う施設づくりを目指してほしい」と伝えている。ご利用者の想いや体調を丁寧に確認し、意思決定を大切にされた声かけを続けている。主任も、「ご本人の横に座って言葉を大切に受容し、待つケアを実践するよう」に伝えている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマに合わせて本人の希望や能力を勘案した研修会の案内を行っている。参加希望者には研修日程に合わせた勤務形態をとっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主体で行政も参加する「地域密着ネットワーク」を平成21年度に創設し、情報交換・勉強会・相互訪問・研究発表等々、介護サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人・家族の意向を聞き取り、センター方式に基づくアセスメント用紙を活用してご本人の思いや不安・要望等の把握に努めている。意思疎通の困難な方の思いは日々の関わりの中で信頼関係を築いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に担当者会議(参加者 ご本人、ご家族、管理者、ケアマネ、看護師、介護士)を開催、ご家族の要望等を聞き、ケアプランに活かして職員全員共有の中で支援できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の担当者会議にて、ご本人・ご家族の要望を総て伺い、全てを受容することでまずご本人・ご家族の要望を支援の方針としている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に介護過剰にならないよう、利用者の出来る事はやって頂くように、暮らしを共にする同志の関係が築けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者・計画作成担当者は、ご家族の面会時にご利用者の近況報告を行うとともに介護スタッフはご利用者本人のエピソードや出来事などを細かく説明し、共に利用者本人の支えになれるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者のご家族にお願いして、昔のアルバムや手紙等を持ってきて頂き、懐かしく思い出して頂いています。	馴染みの方の面会もあり、居室等で過ごされている。家族と自宅に帰られたり、馴染みの美容室や知人が生活される施設に行かれている。職員と馴染みの神社に行かれたり、ご利用者の自宅周辺を巡り、会話が弾むひと時になっている。今後もスカイプ等の利用を検討予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝10時から全員揃って朝礼・リハビリ体操等を行い、利用者同士が関われるようにしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退所された利用者の家族がご逝去されたとのことで報告され、お世話になったことを、お礼においでになりました。今後もこういう関係を築いていきたいと思えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式に基づくアセスメント用紙を活用しご本人の意向の把握に努めています。意思疎通の困難な方には、ご家族に聞いたり職員の気づきを皆で共有している。	ご利用者の生活歴や趣味等を伺い、センター方式に記録しており、体調変化に応じて、ペンの色を変えている。ご本人の想いに傾聴し、ご本人の「知りたい事」「心配な事」等に真摯に向き合うように努めている。今後もご利用者との会話の機会を増やしていきたいと考えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時カンファレンスで生活歴・馴染みの暮らし方等を知り、サービス利用時の経過については常にカンファレンスし、全職員で共有把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートのD1、D2、C1-2シートを活用し本人の心身状況を把握している。職員とケアマネで現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当職員を決めて、アセスメントの際に具体的な話を伺い、計画作成に活かしている。	ミーティング時にケア内容を情報交換し、計画作成担当が計画を作成している。担当職員がモニタリング(1回/3ヵ月)をするようになり、観察力も深まり、意見も増えている。畑仕事等の役割と共に、意思疎通が困難な方は「挨拶ができる」を短期目標にする等、個別の計画作りに努めている。	担当職員がモニタリングを行う事で、良い効果が見られている。今後も職員全員で生活歴等を把握し、アセスメントと介護計画作りに参加する事で、ご利用者個々の行動の背景を理解した解決策の検討や日々のケアに繋げていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく把握できるように、ユニット毎の記録から個別に細分化した記録方法も変更してきました。その結果アセスメントも細分化でき介護計画の見直しに役立っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の食材買い出しや物品の購入の際にスーパー・大型量販店まで一緒に出掛けしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館で開催される盆踊りや、夏祭り参加をすることで地域の方と楽しむことが出来ました。認知症があっても普通の人と変わらない事の理解を得ることが出来ます。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	永年、協力医として、支えて頂いている。担当外の内容にも相談ができ、適切な処置や他の医療機関への紹介など良い関係を保っている。ご家族も納得され安心して受診、往診を任されている。	施設長と看護師が受診介助している。歯科医を含めた定期往診もあり、医師からアドバイスを頂いている。職員の観察力も高く、24時間体制でホームの看護師に相談でき、必要時は駆けつけて下さる。バイタルや食事量等を看護師が一覧にして下さり、使いやすくなっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者と看護職は連携をとりご利用者に適切な受診や看護を受けられるように支援が出来る様にしていますし、看護の申し送りノートにて日々の気づきを報告できるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の準備物及びその後の洗濯物等はすべて事業所の方で対応して、ご本人・ご家族は安心して治療に専念できるようにしています。面会時には主治医と情報交換にて早期退院できるように努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時にどう対応するか管理者・看護職がご利用者ご家族と話し合っている。入居時施設で終末期を迎えたいと希望されていてもその後の環境変化で入院を希望される家族もおられ、繰り返し話し合いをして意思の確認を行っている。	終末期の指針を契約時に説明すると共に、心身状態に応じて特養等もある事を説明している。体調変化に応じて、医師から「治療や入院の必要性」の説明が行われ、その時々意向確認を続けている。「ここで最期まで」と希望される方が多く、家族と一緒に温かいケアが行われ、エンゼルケア(口紅等)も一緒に頂いた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生対応マニュアルに基づき全職員の教育を実施しています。又、応急手当については看護師より初期対応・発生時対応の訓練をおこなっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導の訓練については、火災のみならず、地震、水害を想定をしている。運営委員会で地区消防本部が一番近いと判断されている。全職員は最短の距離を熟知している。	消防署の方も来て下さり、アドバイスを頂いた。2階からすべり台で避難でき、災害時は福祉避難場所として、地域の方を受け入れる予定である。災害に備えて食料や飲料水を確保している。土砂災害時のマニュアルもあり、宗像市の防災訓練にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定に基づき研修をおこなっており「こころの抑制」をしないようにミーティングや申し送りを通じ話し合っている。特に介護途中の声掛けは優しい口調をするように全職員には伝達している。	ご利用者のペースを大切に、「待つケア」が行われている。ご利用者の目線で声かけし、残存能力を引き出すように努めている。ご利用者に背を向けて職員間の話し合いをしないようにしたり、部屋番号で申し送りを行うなど、プライバシーの配慮に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に希望を確認している。リハビリやレクリエーションの時間に問いかけを増やし、希望や思いは出来る限り早く実現できるようにしている。散歩、買い物等。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活スタイルを大切にしている。ご入居者同士で会話をされる方、TVをみられる方、読書をされる方等、個別の支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎週土曜日を「おしゃれの日」に設定している。散髪は2カ月に1回福祉理美容サービスより出張にておこなっている。事業所内行事や外出行事の際もお化粧やマニキュアをして頂くようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が一緒に楽しく食事が出来る様に揃った段階でスタートするようにしている。食事形態もそれぞれで変えて、丼物が嫌いな方は主食と副食に分けて盛り付けするなど好みの希望を聞くようにしている。	前回の外部評価以降、ご利用者が調理する「カレーの日」を作られた。カレー以外に郷土料理「ダブ」作りも楽しまれ、昔話に花が咲くひと時になっている。もやしの根取りや白玉作り、誕生日のケーキと一緒に作られたり、畑の野菜作りも楽しまれ、庭のパーベキューも好評であった。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の生活歴や残食の状況から好みものを把握し献立を考えている。ご入居者の状態に合わせて食事量や嚥下咀嚼力に合わせた食事形態にしている。食事水分量のチェックにより医療との連携も実施してる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者に合わせた口腔ケアを実施している。入歯を使用している方は定期的に除菌を行っている。居宅療養管理指導で月4回の歯科往診と毎朝のリハビリの時間に嚥下体操をするようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日のリハビリの時間に下肢筋力向上の訓練を取り入れたり、昼間のトイレ排泄を誘導する事で、夜間もポータブルトイレ使用やトイレでの排泄に切り替える支援を行っている。	自立支援と羞恥心への配慮を大切に、「ご自分でされますか」等の質問を交え、意向の把握に努めている。布の下着を使用する方もおられ、立位が難しい方も2人介助でトイレにお連れしている。バイタルや排泄チェック等を一覧にしており、医師からもお褒めの言葉を頂いた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者にあつた形態の水分を十分に補給して頂くようにしている。食物繊維を多く含む食材の利用に心がけている。便秘が続く時は主治医と相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	週3回の入浴の外、汚染時等は必要に応じて入浴する体制にしている。時間は現在は決まった時間になっているが、ご入居者の希望時間を聞いたうえでローテーションの変更等を考慮するようにしている。	職員との信頼関係もあり、入浴を拒否される方はおられず、「朝一番に入りたい」等の要望に応じている。同性介助も行われ、「温泉の日」として入浴剤を月4回楽しまれたり、職員との会話も楽しんでいる。自立支援を大切に、できる所は洗って頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に入眠時間は定めてなく夕食後はTVを見られる方や読書をされる方など、それぞれご自分のペースで自由に過ごされるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職が一人ひとりの薬の管理をしており、症状変化やコントロール薬についても主治医と連携で服薬支援をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午後のレクリエーションの時間を利用して庭の野菜収穫に出たり、散歩や天気の良い日は中庭でお茶会している。又、物品購入の際、量販店に同行してもらっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭の散歩はいつでも散歩できるようにしている。また、花の綺麗な正助ふるさと村にお連れしてゆっくりとした気分を味わって頂いています。	地域の敬老会に参加する途中で、車窓から自宅付近の風景を思い出されている。上西郷川公園のコスモまつりや宗像大社の菊花展など、季節の花見に出かけたり、正助村で頂いた花苗はご利用者と玄関のプランターに植えている。自室のカテンや洋服を職員と買いに行かれたり、初詣のための洋服を家族に準備して頂いている。	今後も、ご利用者個々の「行きたい所」を確認し、家族と一緒に個別の要望を叶える取り組みを増やしていきたいと考えている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、おやつ等を購入したりしている。菊花展で宗像大社に行ったときに幸福餅を購入して頂いた。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者に家族宛の年賀状等を作成して頂き、投函している。携帯電話もお持ちの方がおられ電話を楽しんでおられる。希望されれば電話を掛けていただき会話を楽しまれている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの演出を入居者と職員の共同で行っている。桜の花びら、こいのぼり、アジサイの花、七夕の短冊など作って頂いたものをホールや玄関に飾り、季節感を打ち出している。	玄関やリビングには季節の作品や行事の写真、アルバムと共に、ご利用者の素敵な所を記入し、「サンクスボード」に掲示している。29年度はDVDプレーヤーを購入し、時代劇等を楽しまれたり、両ユニット合同で体操やレク等をされており、今後もレクの内容を工夫していく予定である。グリーンカーテン(ゴーヤ)を活用し、日よけ対策も続けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で一人の空間をたのしんだり、食堂やホールで語り合ったりする場所・時間を提供している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の時にご家族の方へはご相談しているので居室内にはなじみの物が入っている。ご本人の意向で徐々に増えていっている	担当職員が居室の飾りつけや整理整頓をされている。ベッドは備え付けで、畳を敷いて布団で休まれる方もおられる。家族の遺影や仏壇を置かれたり、家族が持参して下さる“弓矢”等も飾られ、眠る前にラジオで歌(童謡、歌謡曲など)を聴かれる方もおられる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
57		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食堂、トイレは大きく案内表示しており、自立に向けた環境にしている。食事時間の表示や日課表を居室に掲示して自立に向けた行動が出来る様にしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		